

外来看護を見つめなおして

南6階病棟 発表者 西 網 富 子

藤 森 ふみ子・丸 山 ひさみ・大 平 綾 子・安 田 妙 子
 青 木 瑞 江・丸 山 登喜子・藤 原 みつる・朴 沢 裕 子
 小 林 千 春・青 木 周 子・中 村 忍・小 池 正 美
 仲 田 弘 美

1. はじめに

外来勤務をする中で私達は、看護を十分に行っているだろうか。次々とある検査処置を片つける事に重点をおき、患者には早く早くとせきたて、待ち時間を少しでも短かくしてあげたと満足している事はないだろうかと考え、まず長期にバックカテーテルを留置している患者を対象にして問題点を把握し家庭指導の検討及び患者ひとりひとりの望んでいることは何かに焦点をあて、外来看護を振り返って見ました ここに発表します。

2. 研究期間 S53年9月1日～S54年1月31日

3. 長期バックカテーテル留置患者への働きかけ

近年高齢者に対しては経尿道的前立線切除術（以後TURと略す）又は凍結療法が行われカテーテル抜去に至って来ているが。当泌尿器科外来においてはカテーテルの留置を余儀なくされている患者が年間外来患者数のうち91名で3.4%をしめている。長い人で10年、短い人で1週間とまちまちではあるが長期に渡り通院している人は留置している事をどのように考えているのか。又日常生活上の障害はないかなど面接により問題点をみい出した。

4. 面接の結果及び分析

対象はS53年9月1日から10月31日迄の外来通院患者28名です。

面 接 内 容	結 果	分 析
1) 性 別	男性……24名 女性……4名	86%と男性が多い。
2) 年 令	20代……1名 30代……1名 50代……2名 60代……4名 70代……11名 80代……9名	70代、80代が約70%をしめている。 60代以上は全員男性である。
3) 挿 入 期 間	6ヶ月未満……………8名 6ヶ月以上1年未満……………3名 1年以上……………6名 2年以上……………5名 5年以上……………3名 8年以上……………3名	
4) 職 業	在 職 者……………12名 無 職……………16名	職業を持っている者は半数いる。 農業従事者が多い。
5) 家 族 構 成	ひとり暮らし……………1名	

	同居者あり……………27名	
6) 入浴	家庭風呂……………26名 公衆浴場……………2名	家庭風呂があるのに公衆浴場を利用している者もいる。
7) 膀胱について	している……………19名 していない……………5名	面倒という理由からしていない。
8) 固定について	そのまま……………10名 工夫している……………17名	半数の者が何らかの工夫をしている。
9) 旅行	している……………1名 していない……………12名 困まっている……………6名 ひかえている……………6名	ほとんどの人が旅行をしていない。
10) 身体症状	尿もれがある……………11名 不快感あり……………4名 出血あり……………2名 尿の流出悪し……………1名	全員何らかの形の不快症状がある。
11) 精神面	抜去希望……………8名 あきらめている……………1名 このままでよい……………5名	57%と過半数が抜去希望している。
12) その他	通院が面倒……………1名 性生活上支障がある……………1名	性生活上の問題については全員から解答が得られなかったが、老人であるとして片づけられない問題である。

以上の面接の結果より次の三つの点にしばって援助を行った。

- 1) 日常生活指導の再検討。
- 2) バックカテーテル抜去の方向にむけて。
- 3) 入浴できない人のための援助。

1) 日常生活指導の再検討

従来は初めてバックカテーテルを挿入する時だけ家族を加えて説明を行って来たが、今回の面接を通して一度の説明だけでは不十分と考え、次の点に留意しパンフレットを作成した。

- ① なるべくわかりやすい言葉・文章を用いた。
- ② 絵を入れてわかりやすくした。
- ③ 特に守って欲しい点を強調した。
- ④ 日常生活上おこりそうな事を具体的にとりあげた。
- ⑤ 緊急時の連絡先を入れた。

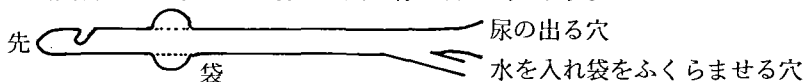
パンフレット 『生活のしおり』として

ーバックカテーテル留置中の方へー

泌尿器科 看護部

。バックカテーテルとはどんなものでしょう？

尿の出具合をよくするため膀胱に図の様な管を入れます。

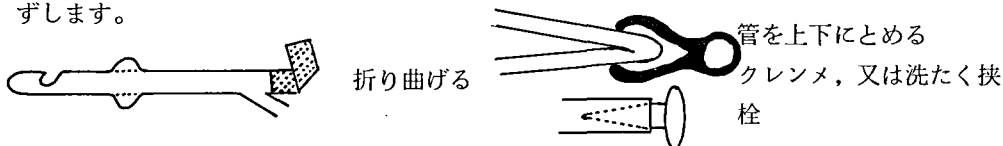


管は二重になっており、先に水を入れ袋をふくらませ膀胱から抜けないしくみになっています。

注意：ふくらませた袋の水を抜いたり、バックカテーテルを引き抜いたりしないようにしましょう。

○ではどのように取り扱ったらよいのでしょうか？

カテーテルは尿の出る穴を洗たくばさみや、クレンメや、栓で止め尿意を感じたらトイレではずします。



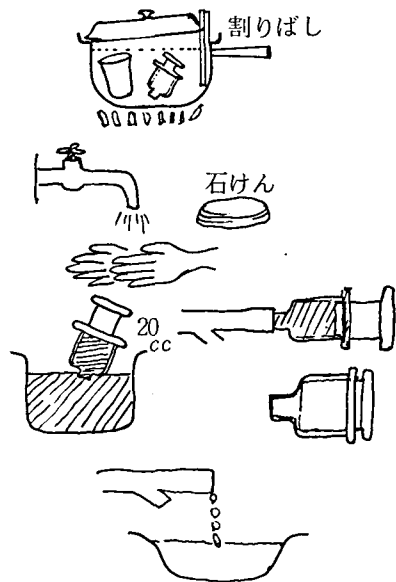
○医師の指示を得てからバックカテーテルを洗浄しましょう。

- ① 用意するもの 1. 洗浄器 2. 洗浄液を入れるコップ 3. 膿盆…または洗面器、ボール 4. なべ 5. 消毒用アルコールを浸した脱脂綿 6. 洗浄液（リバノール液） 7. 割りばし

注意：リバノール液が終了してしまった場合には、いったん沸とうして体温程度にさめた湯を使います。

洗浄器、コップ、膿盆は市販されておりますが他のものでも応用できます。

㊤ 洗浄の手順



- ① 洗浄器とコップが充分ひたせるように、なべに水を入れ15分間沸とうさせます。この時割りばしもおいしょに立てて入れておきます。消毒専用のなべを作りましょう。
- ② 洗浄器とコップを割りばしで、なべから取り出します。
- ③ 石けんで充分に手を洗います。
- ④ アルコール綿でバックカテーテルの尿の出る穴をよく拭きます。
- ⑤ 洗浄器に洗浄液を20cc程入れバックカテーテルの尿の出る穴につなぎ、液を入れます。
- ⑥ 洗浄器を穴からはずして、入れた液が出るのを確かめます。この時、カテーテルの穴が汚水に浸らないようカテーテルの穴と膿盆とをはなしておきましょう。
- ⑦ 液が出たら再びコップにある洗浄液を入れ洗浄します。
- ⑧ この液の出し入れを3～4回くり返したら、再びバックカテーテルの栓をして終わりです。

注意：管を止めたらカテーテルの穴をアイロンをかけた布や、日光消毒をした布でくるみましょう。

○次のことに注意して日常生活をおくりましょう。

- ① 水分は多めにとって下さい。
- ㊤ 毎日、朝晩体温を測りましょう。
- ② 毎日入浴しましょう。
- ㊤ 尿道口が尿道分泌物のために汚れることがあります。心配ありません。分泌物で汚れてしまったら家にあるマージリンやマキロンで消毒して清潔にしておきましょう。
- ㊤ カテーテル留置中でも、旅行はさしつかえありません。

○カテーテルは2週間に1度交換してもらいましょう。

- 2～3ヶ月に1度カテーテルを抜いてもよいか医師，看護婦の相談を受けよう。
- カテーテルを踏まないよう気をつけて下さい。

※ 尿もれのある時や痛いとき，血尿があったり急に尿が出なくなってカテーテルを洗浄しても尿が出ない時にはすぐ来院して下さい。

不明な点についてはいつでも医師，看護婦にお聞き下さい。

連絡先 松本（0263-35-4600 内線 6306）

以上パンフレット作成により看護側からは，

- ① 統一された指導ができ説明しやすい。
- ② 患者の問題を十分把握することができるようになった。
- ③ 経済的なことが配慮されていて良い。

などの評価がえられた。患者にはバック交換時に家族と共に来院していただき，パンフレットをもとに説明を行った。患者側からは，

- ① 家の人が患者の様子を聞きやすくなった。
- ② 図があってよい。
- ③ 連絡先が書いてあってよい。

の評価が得られた。まだ問題点はあるがこの先き使用結果を聞き工夫改善して行きたい。

2) バックカテーテル抜去の方向にむけて

バックを抜きたい人の希望を聞き医師と面接をしてもらう。

- ① 第一の試みとしてはバック交換時に200ml以上の生食を膀胱内に注入後バック抜去し，自尿を試みる。150ml以上の排尿があればそのまま自宅で様子を見る。夜間尿閉の場合は病室へ来院するよう話し安心させる。 5例中…成功2例，再留置3例
- ② 抜去してどうしても入浴したい人，性生活の問題を持った人のために，来院の4～5時間前に自分でバックカテーテルを抜去してもらい排尿状態や一回の排尿量などを観察して来院し再留置か否かを主治医の指示をうける。 3例中…成功1例，再留置2例
- ③ 手術を希望する人に対しては全身状態の検査を行い，凍結療法又はTURの適用を決め手術を受ける方向へもって行った。

凍結療法	8名	抜去に至った人	2名
TUR	11名	抜去に至った人	8名

以上の結果「バックを入れはじめた頃は尿道不快のため，死を考えた事もあったがバックが抜けてうれしい春が来たようだ」と話してくれた人。手術を受けても抜去に至らなかった人も，自分なりに病気を受けとめ，安定した日常生活が送られるようになった。

3) 入浴できない人のための援助

1～2ヶ月に一度来院し病室においてバックカテーテルの交換，洗髪，清拭，髪の毛のカットを行っている。

5. 考 察

以上，忙しい忙しいとつい流れ作業的におこなっていた外来業務も改めて見つめ直すと患者と話す時間のとれることがわかり，その大切さを痛感した。家族と同居している老人でもさびしさを感じている人が多いのか医師，看護婦が自分の病気に対して話しかけてくれる事がわかりうれしいと，ぼつりぼつり言ってくれる人もある。また看護婦も患者が病気をどのようにとらえているかを知り，気楽に話しかけられるようになった。

6. おわりに

今回は留置カテーテルを挿入している患者にのみ焦点をあて研究をすすめてきたが、まだまだ診療介助、処置の介助、待ち時間等その他外来看護の問題点は多くのこされている。

今後少しでも、患者に接する機会を多く持ち患者の不安や恐れ、心配の原因が何であるかを知り、それらを取りのぞく様努力していきたい。

最後にこの研究にあたり御協力して下さいました方々に感謝して発表をおわります。

<参考文献>

- ・看護面接 日本経営出版会
- ・看護面接の理論 松野かほる訳, 医学書院
- ・看護計画の実際 メヂカルフレンド社
- ・看護技術 メヂカルフレンド社 1969年 2月号 P10, 41, 47